

高齢者におけるサルコペニアと糖尿病の併発と 栄養素の摂取との関連性

成果の特徴

男性では、サルコペニア（加齢による筋量減少・筋力低下の状態）と糖尿病の併発、サルコペニア単独が、女性では、サルコペニア単独のみにおいてタンパク質と炭水化物を含む全般的な栄養素の摂取状態が有意に不良であることが明らかになりました。

分析対象者
(2,952名)

コントロール群
(1601名)

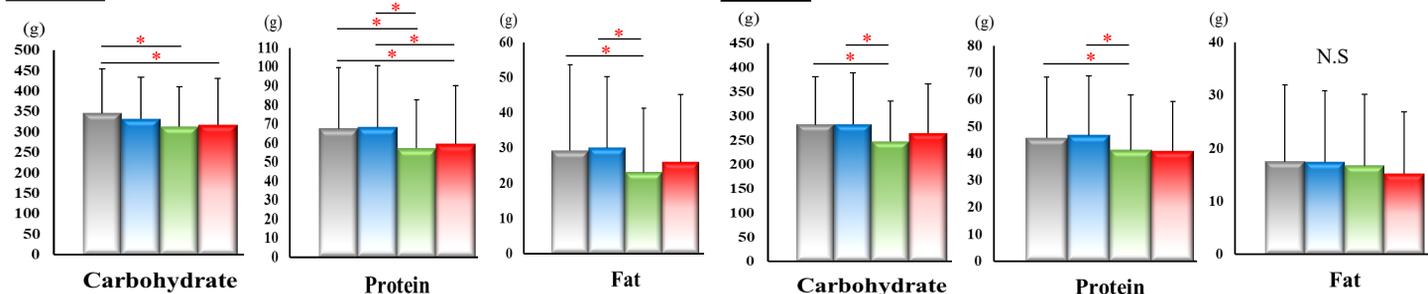
糖尿病単独群
(384名)

サルコペニア単独群
(770名)

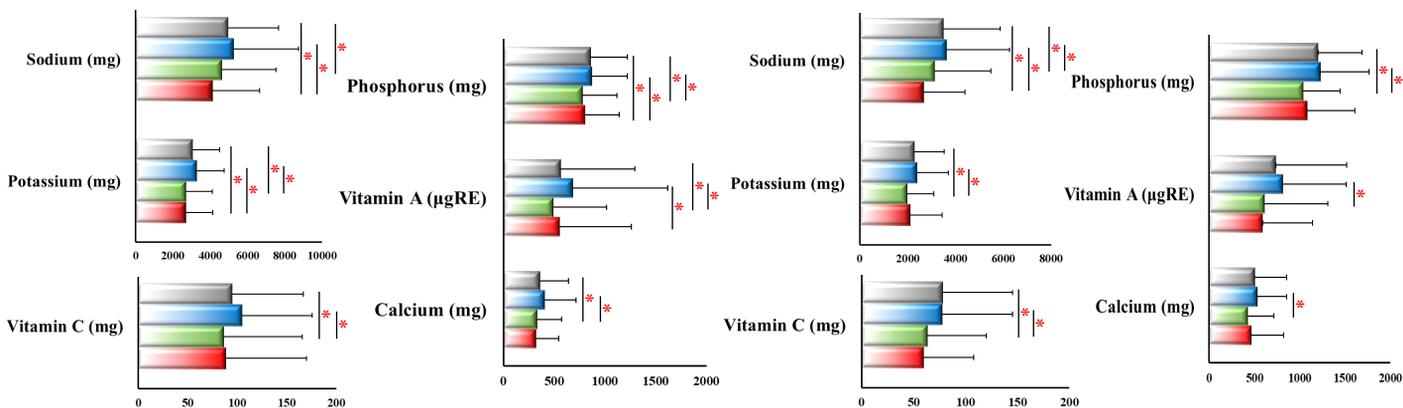
サルコペニアと糖尿病群
(197名)

男性

女性



男性のサルコペニアと糖尿病の併発、サルコペニア単独、女性のサルコペニア単独では、
栄養素の摂取量が低い



グラフが低いほど、栄養素の摂取状態が不良である

* $P < 0.05$, Kruskal-Wallis test, Post hoc analysis with Bonferroni correction

想定される用途・連携希望先

本研究の成果は、今後サルコペニアと糖尿病を予防及び改善する食事介入プログラムの開発や二因子の因果関係を解明するコホート研究での利用が想定されます。

ヒトを対象とした介入プログラム（食品摂取）を開発できる企業や老年医療に関わる企業との連携を希望します。

参考

金美珍、小堀俊郎（2023）第10回日本サルコペニア・フレイル学会大会講演要旨

代表研究者：金 美珍
所 属：食品研究部門
食品健康機能研究領域